

常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和5年11月9日（木）～10日（金）

2 視察項目（視察都市）

- ・流山おおたかの森駅周辺地区整備事業について（流山市）
- ・大宮駅グランドセントラルステーション化構想について（さいたま市）

3 参加委員

委員長：青木 順子、副委員長：萩原 佳
委員：上田 光夫、稲葉 通宣、坂口 康博
委員外議員：山本 由子

4 調査概要

流山市では、「都心の快適さと緑が共存する、子育て世代が賑わう森のまち」をまちづくりのテーマに掲げ、市域中央に位置する流山おおたかの森駅を中心に新市街地地区の開発が進められてきた。平成24年にまちなみづくり指針が制定され、新市街地地区の建築計画を策定するにあたって統一感のある街並みを実現するための基本的な考え方と具体的な方策を指針として示したものとなっている。また、緑豊かで良質な住環境の整備も進められており、開発事業により失われた緑を回復させるため、住宅や店舗等の敷地内への植栽を促し、街並み全体の緑化を図る「流山グリーンチェーン戦略」といった緑の回復を目的とした施策も積極的に進められている。

さいたま市の大宮駅では、上越新幹線の開業を機に駅前を含めた立体的な整備がなされた。平成22年、改めて大宮駅周辺地域戦略ビジョンが策定され、大宮駅グランドセントラルステーション化構想へとつながる。国の首都圏広域地方計画への大宮の組み入れや、交通政策審議会の答申に駅改良をプロジェクトとして位置づけてもらうための取組みなど、事業に取り組みやすい環境整備を並行して行いながら、駅周辺のまちづくり、交通基盤整備、駅機能の高度化という3つを柱に、地域住民との合意形成を図りながら事業に取り組まれている。



流山市にて

5 委員長所感

流山市では、目指す街のイメージが駅名にも現れ、それが市民の誇りや、訪れる人々の関心にも繋がりと、人口の飛躍的な増加にも表れていると感じた。「都心に一番近い森のまち」をコンセプトに市が目指すところを明らかにしながら、まちなみづくり指針を示し市と地権者が共通の視点をもって取り組んできた意義は大きいと感じる。『都心から一番近い森の街』というグランドデザインが具現化されたことは他にはない成功事例ではないかと思う。本市の市街地両駅周辺整備においては、再整備の困難さを改めて感じる視察ではあったが、本市は流山市と共通する特徴を多く併せ持ち、目指すべき方向性に示唆を与える有意義なものとなった。

さいたま市の大宮駅周辺は高いポテンシャルを有しながら、根付いてきた人々の思いや立場の違い、市が目指す将来の方向性等、クリアすべき課題を抱えており、そこに再開発の難しさが有ることを改めて痛感した。市は、地権者等の立場を尊重しながらも将来を見据えた方向性をいかに示し、構想を実現出来るのかが問われていると感じた。